

小諸市事業シート（概要説明書）				整理番号	4
事業名	火山館運営事業				
担当部名	市民生活部	担当課名	生活環境課	作成責任者	安藤 貴正
事業実施年度	平成17年度～				
根拠法令	小諸市火山館条例 / 小諸市火山館管理運営規則				
実施方法 (該当するものすべてにチェック)	直接実施				
	業務委託又は指定管理 ()				
	補助金〔直接・間接〕(補助先:)		実施主体:)		
	貸付(貸付先:)		その他()		
事業概要					
目的 (何のために)	市民の野生生物等学習の場、自然保護活動等の拠点並びに火山活動時等における緊急避難場所及び登山者の休憩場の場として火山館を設置し運営している。				
対象 (誰・何を対象)	登山者				
事業内容 (手段、手法など)	<p>館長が通年常駐し、施設全般の維持管理はもちろん、登山道の点検や登山者への浅間山登山情報の提供、浅間山自然観察会の実施等、現地での貴重な動植物の紹介の他、ホームページでも高山植物等の写真を掲載してPRも行っている。</p> <p>施設の維持管理等運営面では、暖房用の燃料(薪)の運搬等、ボランティアスタッフのサポートがなくてはならないものとなっている。また、環境保護のために浄化槽を設置してトイレを水洗化しているが、浄化槽の汚泥処理(運搬)にあたり、ヘリコプターによる輸送では経費がかかるため、簡易的な汚泥ろ過装置を使用して処理する汚泥の量を減らし、人力で登山口まで運搬している。</p>				
事業の必要性	登山者の安全確保を図るとともに、浅間山周辺の自然環境や貴重な動植物の保護・啓発活動の拠点施設として必要である。				
コスト	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度 (予算額)	
決算額(千円)A	3,813	2,317	2,605	3,180	
内一般財源(千円)	3,813	2,317	2,605	予算額の財源内訳 (千円)	
人件費 (千円)	担当職員(人) B	0.01	0.01	0.01	国庫支出金 千円
	担当職員経費 C = B * 平均人件費	73	73	73	地方債 千円
	臨時職員(人)				その他 千円
	臨時職員経費D				一般財源 3,180千円
事業費計(千円) E = A+C+D	3,886	2,390	2,678	補助事業名	
平成21年度 決算額内訳	(歳出)		(歳入)		
	館長報酬(@172,800円)		2,074	千円	
	各種保険料(健保・厚年)		255	千円	
	消耗品費		51	千円	
	暖房用燃料費(薪購入)		11	千円	
	浄化槽保守点検委託料		214	千円	

事業実績	項目	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	火山館利用者数	人	13,406	8,326	5,883
	浅間山自然観察会	人	25	26	6
単位当りコスト (事業費/事業実績)	項目	単位	H19年度	H20年度	H21年度
	事業費/火山館利用者数	円	289.90	287.10	455.27
成果目標 (現状の成果及び今後どのようにしたいか、定量的な評価で示す)	【現状の成果】	<p>平成20年8月から平成22年4月までの間、浅間山の噴火警戒レベルが1(平常)から2(火口周辺規制)あるいは3(入山規制)に引き上げられた影響で登山者が減少したが、施設の維持管理に関しては登山者数に関係なく日常の業務として実施する必要があり、必要最小限の経費で登山者に気持ち良く施設を利用してもらえ環境が維持できた。</p>			
	【成果目標】	<p>平成22年4月から、浅間山の噴火警戒レベルが1(平常)に引き下げられたことにより登山者が急増しているが、このすばらしい浅間山の自然環境の保護活動を推進する一方、PRにも努める。また、登山者のニーズ把握に努め、雨具・地図・ピンバッジ等の販売による新たなサービスの展開も目指したい。</p>			
自己評価 (今後の事業の方向性、課題等)	<p>増加する登山者に対し、これまで以上に浅間連邦の豊かな自然を知っていただくこと、そして、このかけがえのない自然環境を守っていくことの重要性を学んでいただけるよう努めるとともに、登山者が気持ちよくトイレを使用し、休息ができるよう適正な維持管理を行っていく必要がある。また、し尿に対する環境面が取り沙汰されている中で当施設は水洗化しているが、浄化槽の汚泥処理等の維持管理経費及び汚泥処理には多大な労力がかかるため、トイレ使用料(環境保護協力金等として100円程度)の利用者負担も検討する必要がある。なお、貴重な観光資源でもある浅間山の登山者は観光客でもあることから、火山館を観光施設として位置づけ、積極的に県内外にPRするとともに、物資販売等による収入確保についても検討が必要である。</p>				
比較参考値 (他自治体での類似事業の例など)	<p>北岳山荘(山梨県南アルプス市直営の山小屋) 宿泊可能な山小屋で6月中旬から11月上旬まで開設しており、冬季は無人だが一部を避難小屋として開放している。従業員は正職1名と臨職10名程度で、飲食物のほかバッジやポストカード等も販売している。屋外の公衆用トイレには協力金募金箱を設置。来年度より、指定管理者制度の導入に向け検討中。H22年度の予算は99,398千円で、うち64,988千円が使用料収入となっている。 また、他に有人の山小屋が4施設あり、いずれも指定管理者制度を導入し、NPO法人に管理を任せている。</p>				
特記事項 (事業の沿革等)	<p>平成17年度より商工観光課から所管替えを受け、野生生物等学習の場、自然保護活動等の拠点並びに火山活動時等における緊急避難場所及び登山者の休憩の場として、生活環境課にて管理運営を行っている。</p>				